

学校保健委員会だより

射水市立作道小学校

2月21日（木）平成24年度学校保健委員会を実施しました。

作道小学校の子どもたちの発育状況、う歯罹患状況、視力の状況、とやまゲンキッズ作戦の集計結果と今後の在り方について話し合いを行いました。また、子どもたちのメンタルヘルス、生徒指導、食育、体力づくりの面から気になることについて各主任の先生から意見を出してもらい、協議をしました。

健康・安全・生活面について



前年度に比べて廊下を走ったり、シューズのかかとを踏んだりしている子どもの姿を見かけなくなりました。全学年で生活規範の意識が高まっているように思える。

衛生的な面では、トイレと給食前の手洗い・うがいはまだまだ徹底されておらず、ハンカチとティッシュの持参も習慣化できていない。引き続き、こまめな声かけを行う必要がある。特に低学年の手洗いは家庭にも協力をお願いし定着させたい。

う歯の状況について

未処置歯（乳歯・永久歯）大きく保有者割合が、全学年で県の平均（県平均9.2%本校30.1%）を大きく上回っている。家庭によっては、治療カードを出しても歯科を受診した様子が無い場合もあり、保護者への個別の啓発の必要性を感じている。



運動の取り組み状況・体力面について

運動に関しては、たくさんの子供が運動に親しんでいる。しかし、運動能力は個人差が大きくチームプレーやスポーツマンシップに欠ける言動もしばしば見られる。

体育の時間を充実させて、運動能力を伸ばす機会を増やし自分もできる！と一つ自信を付けさせることも大切だと思う。

気になる子どもたちのメンタルヘルスについて

ゲンキッズの結果より、『イライラすることがある』の項目で「はい」と答えた子どもが学年が進むにつれて増加している。一方で、『自分の良いところを知っている』の項目では「いいえ」と答えた子どもが増加しており、子どもたちの自尊感情や自己肯定感の低下が懸念される。学校ではあったかメールの実践を通して、ほめたりほめられたりする心の心地よさを実感として体験させている。また縦割り班での活動を通して、学年を超えた人間関係を1年かけて育む取組も行っているが、今後はストレスを感じたときの上手な解消方法もスキルとして身に付けさせる指導が必要なのかもしれない。

給食・食育の面について

今年度は、給食後を昼休みとした事で、食事の時間に余裕ができたおかげで各学年で食事の時間が確保しやすくなった。

前年度から「食べきるエコ」を給食委員会でも全校に働きかけてきた。残食を無くしたいという気持ちが子どもたちにも浸透してきた。今年度実施した残食調査では、食缶をカウにして返せるクラスが多かった。

